

武家屋敷の土壁・石垣

金沢の侍の居住地跡はとても目を引きます。狭い路地には、土や石でできた壁の通りが長く続きます。

侍の中では、階級が家の土地を囲む壁の種類を決定しました。例えば、足軽（歩兵）は壁をつくることが全く許されていなかったので、生け垣をつくっていました。しかし、平士かそれ以上の階層の侍は土地を「土壁」で囲んでいました。

土壁は、重厚で頑丈な壁を生み出す版築の技術で建設されています。砂利、石灰岩、砂利、河川砂、にがり（海水から塩を抽出する際に生成する余分な液体）を混ぜ合わせて、頑丈な土の材料とし、木製の型に流し込んでしっかりと詰める。これを、重く長い防衛壁ができるまで、何度も繰り返します。

土壁は石垣の上に作られました。各家が作ることができる石垣の形式は、階級によって決められました。ここで見られる形式は、切り取られていない不均等な石で構成される「野面積み」です。これは天然の石をそのまま積み重ねたものです。ただし、角だけは、金沢市の戸室山からの取られた高品質の切石を使っていました。全体として、石は山裾のような形に積み上げられています。

土壁の上部には、雨から壁を守るためのスギ製の小さく傾斜した屋根があります。冬の12月から3月にかけて、凍結によって壁が破損する恐れがあります。したがって、壁が凍結するのを防ぐために、織られた藁のマットで覆われます。これは、金沢の冬の街並みの特徴です。